

2016 年全日本ラリー主催者意見交換会議事録

2016 年 2 月 4 日 ビヤステーション恵比寿 2 階にて

出席者 主催者＝第 1 戦 3 名、第 2 戦 2 名、第 3 戦 3 名、第 4 戦 2 名、
第 5 戦 2 名、第 6 戦 2 名、第 7 戦 1 名、第 8 戦 1 名、第 9 戦 3 名
JRCA 長瀬、新井、佐藤、中島、富田、斉藤、染宮、伊藤

1. 各イベントの紹介

各主催者より、今年のイベント概要の説明が行われた。

2. 参加申込み方法の確認

- ・ペーパーレス化を受け、メールかファックスのみの受付となる。署名必要書類は競技受付時に署名をする流れとなる。保険、車検などの書類は事前にコピーを送付してもらうようになる。共通申込書類の署名欄の「印」は削除された。
- ・速報の紙による配布をやめ、公式通知掲示板に一枚貼りだすのみとし、参加者はWEB上にて参照することとなる。
- ・年間エントリーのシステムを構築できないか、という提案が行われた。また、共有のデータベースを構築し、参加者が書き込んでそのデータを共有できるようにしてはどうか、という提案が行われた。

3. 申し送り事項について改善

- ・全主催者で各ラリーの事象を共有できるようなメーリングリストを作成することとなった。
- ・問題になっている舗装路のウォームアップ行為について。JRCA の選手部会でも情報を共有し、啓蒙できないか、という提案があった。占有開始地点から SS スタートまでの距離を長く取るなど、主催者も工夫している。ロードブック内に「占有区間開始地点」などの一文を入れたり、占有開始地点のロードクロージャーが何等かのアピールしたり、ウォームアップ行為可能区間を明示するなど主催者は更なる努力をするとともに、選手も占有区間以外でのウォームアップ行為は厳に慎むよう、全体で啓蒙していくこととなった。

4. その他

①メディアについて

- ・JAFカー走行後の勝手な行動はくれぐれも慎んでほしい。

- ・新しい取材メディアが増えており、SSの撮影が危険であるということを理解してもらうことが、より重要になってきている。
- ・メディア部会より、メディアポイント作成等の手伝いを申し出ており、各主催者は有効に活用してほしい。
- ・据置型カメラやドローンが事故につながらないように、配慮したほうがいい。ドローンは国土交通省や自治体の制限があるが、例えばコースの真上は飛ばさないなど、ガイドラインを作る必要がある。

②開催規定の変更項目について

- ・今年から使用タイヤに関する規定が変更になった。
- ・参加確認には必ず本人が来ることとなった。参加者ライセンス保持者も同様。
- ・車検時に保険や車検証のチェックを行う。これに関しては誰が提示しても可。(上記2点はこれまで受付時に行われていたが、これを分けた形となった)
- ・サービス時間については、各セクション間と各デイ間とも、オーガナイザーが幅を持って設定できるように改正する予定。
- ・今までは、全日本以外のラリーでは、スタートからストップまでに必ずラジオポイントを設置することになっていたが、全日本同様にSSが5Km以上の場合に設置することに改正する予定。
- ・FIAより、ラリーにおける事故が発生していることから、スピード制限の要請が来ている。これを受けて、各オーガナイザーがスピードやコースの安全性を考慮してSSを設定するよう一文を入れた。
- ・天候悪化や安全性のため、審査委員会がSSをキャンセルした場合は、係数が変更とならないように対応することとなった。
- ・ポイントの数字が変更になった。
- ・クラス区分が変更となった。

③観客やファンについての要望等、リエゾンやガスコンなどにおけるギャラリーの安全意識啓発について

ガスコンのスタンド敷地内において、腹這いになってローアングルで写真を撮っている観客がいた。リエゾンなどでも、ガードレールから身を乗り出して撮影するなど、危ないシーンが時折見受けられる。

④各クルーのインカービデオの公開について

参加クルーが車載映像をアップするケースが増えているが、クラッシュシーンを見てクレームが寄せられたケースがあった。ラリー開催に関わる可能性のある問題だけに、考えていかなければならないテーマかと思われる。

⑤その他

レックスケジュールをもっと早く公開してほしいというリクエストが、選手からあった。

⑥観客サービスのため、シェイクダウンをもっと多くのラリーでやれないだろうか、という提案があった。